

授業科目 NO.810 助産実習

Midwifery Practicum

授業の形態： 実習

単位数（時間数）： 9単位（405時間）

開講年次・学期： 4年次・前後期

必修・選択の別： 選択・助産師選択コース必修

キーワード： 妊産褥婦及び家族、助産診断、助産実践、役割・責任

1 金沢医科大学看護学部の到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学修目標

1) 一般目標（GIO）

既習の看護・助産学に関する知識と技術を用いて、周産期にある対象の正常性を診断し、対象（家族含む）を尊重した個別性ある助産実践が安全・適切に提供できる。また、実践をとおして、自己の助産師として必要な役割・責任・能力における課題を考察できる。

2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 正常な妊産褥婦及び新生児の助産診断を行い、助産実践（ニーズに応じた助産ケア及び分娩介助技術）を安全・適切に提供できる。（②）
- (2) 妊産褥婦及び家族を尊重して関わることができる。（①②）
- (3) 周産期にある対象の異常発生の予測と予防的行動がとれる。（②）
- (4) 助産師に求められる役割・責任・能力を理解し、自己の課題を明確にできる。（①②③④）

3 学修内容

実習の内容は、実習要項に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	
実習成績	100%
レポート	
授業態度	
小テスト	
口頭試問	
その他	
合計	100%

(特記事項)

5 教 育 担 当 者

科目責任者：山崎 智里

准 教 授	山崎 智里 (母性看護学・助産学)
嘱託准教授	北濱 まさみ (母性看護学・助産学)
講 師	三反崎 宏美 (母性看護学・助産学)
助 教	林 智美 (母性看護学・助産学)
助 手	大嶋 舞香 (母性看護学・助産学)

6 教育担当者の実務経験

担当教員は看護師・助産師としての実務経験を有している。

7 教 科 書

母性看護学及び助産学で教科書として指定した本

8 推 薦 参 考 書

授業で指定した参考書、授業時の配布資料などを活用する。

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- 1) 助産学方法論Ⅰ～Ⅴの講義資料及び技術について復習しておくこと。
- 2) 授業で作成した助産過程展開用紙及び保健指導案等を見直しておくこと。
- 3) 周産期の診断及び助産実践に必要な知識について、
 - ・公益社団法人 日本産科婦人科学会、公益社団法人 日本産科婦人科医会(編)産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 (https://www.jsog.or.jp/activity/pdf/gl_sanka_2020.pdf)
 - ・エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2020 (https://www.jyosan.jp/uploads/files/journal/JAM_guigeline_2020_revised20200401.pdf)
 にアクセスして、コンセンサスが得られた適正な標準的助産診断・管理法を理解し、ノートにまとめておくこと。

- 4) オリエンテーションまでに必ず実習要項を熟読し準備学修をして臨むこと。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

カンファレンス、評価表を基に到達度や課題をフィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) 詳細な実習内容・方法や留意事項は、助産学実習要項を参照する。
- 2) 実習は学内での既習内容を実践する場であることを念頭に、行動目標達成に必要な助産学・母性看護学及び関連科目の知識・技術の復習をしておくこと。
- 3) 健康管理には十分注意すること。
- 4) 継続事例実習および分娩介助実習は演習科目の実技試験合格を条件とします。

12 オフィスアワー等

担当教員が実習施設に向いた時に質問を受ける。それ以外の時間帯は、実習オリエンテーション時に担当教員の連絡方法を伝達する。